



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成28年02月01日 第753号「週刊五十嵐レポート」

なぜ、シャープは自力で再生できないのか

1月30日付、日経新聞に、「産業革新機構がシャープ再生に乗り出す」という記事がありました。国が9割超を出資する革新機構はシャープを触媒に国内電機の再編を進め、収益力を回復するシナリオを描くとのことでした。

1月28日付、日経新聞の社説には、「シャープの経営悪化は、液晶投資の失敗で2012年3月期に巨額の損失を計上したことで表面化した。さらに、同時期に赤字に陥ったソニーもパナソニックに比べても、その後の同社経営陣の動きは鈍く、抜本的な措置を講じないまま赤字を垂れ流し続けた。結果として、シャープが自力で立ち直る見込みがほぼ消えたのが今の実態だ」と。

リース会社に在籍したサラリーマン時代を思い出しました。80年代のバブル時に不動産融資で業績を上げ、90年にバブル崩壊して、不良債権が多発し、経営危機に陥りました。私は不良債権処理の部隊に移動し、経営再建の一員になりました。遅遅として不良債権処理が進まず、損害額は雪だるま式に増えていきました。経営陣が決断をしないのです。先延ばしをするのです。最終的には株主の銀行が数千億円を肩代わりして倒産は逃れました。

コンサルティング会社の10年はもっぱら中小企業の経営再建業務でした。オーナー社長でしたので、失敗したら身ぐるみをはがされますので必死です。ランチェスター「財務戦略」DVDテキストに企業再建のポイントがあります。「資金繰りの解消と利益性の構造改善の2つが必要」。主力仕入先の債務を借入に変更。(実際は、銀行への元本返済のストップ) 不採算部門のカット 人員整理の断行 車・備品の購入中止。7時出勤 1日12時間仕事をする 年間4000～4300時間働く 趣味は中止 本業と関係ない付き合いは中止 30分以上の長話・長居は中止。

過去、先輩や自分らの戦略を否定しないと再建はできません。悪役にならないと厳しい再建案を断行することはできません。そういう意味では、しがらみのない第三者の進駐軍の方が再建しやすいのは確かです。

ちょっと
気になる出来事

平成28年1月21日付、日経新聞電子版のコラム(大江英樹)。

「定年後に起業できる人、できない人」。

できる人は、好奇心が旺盛なこと。何でも自分でやってみたいという気持ちの強い人。変化を好む。ものごとを変えるのが好きな性格の持ち主。

できない人は、変化を好まない人。何か物事がうまくいかなくてもじっと耐える我慢強さを持っている人。何よりもバランス感覚の優れた人。これらはサラリーマンとして必須能力ですが、起業にむかないとのこと。

ちなみに「町コン経営塾」五十嵐は、好奇心はある 自分でやる気持ちがある 変化を好む。なるほど、だから起業したんだ。

企業が順調であれば、変化を好まない 我慢強さ バランス感覚はすばらしい素質ですが、業績不振に陥り、倒産寸前の企業を立て直すには邪魔になります。



一口メモ
知識

メッセージ・ソースの選択

メッセージが受け手に与える影響は、受け手がその送り手をどのように知覚しているかにかかっている。信頼性が高いソースから伝達されたメッセージは、より大きな説得力を持つだろう。製薬メーカーは、医師が高い信頼性を得ているという理由で、製品の効用を説明するために医師を活用しようとする。

またメーカーは、メッセージを伝えるために有名な俳優やスポーツ選手を使ったりする。

どのような要因がメッセージ・ソースの信頼性の基礎になっているのだろうか。専門性、信頼性、好感性の3つである。専門性とは、主張される内容のために必要とされる権威をどの程度コミュニケーターが保有しているか。

信頼性とは、メッセージ・ソースがいかに客観的であり、誠実であると受け止められるかにかかっている。好感性とは、そのソースがいかに受け手にとって魅力的であるかということである。

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング「新版 マーケティング原理」より

- 「町コン経営塾」小岩校 毎週日曜日 午前10時～12時
- 「町コン経営塾」小岩校 土日集中講座 HP参照
- 「町コン経営塾」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

